

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 2月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502355		
法人名	有限会社 ネイチャー		
事業所名	グループホーム なつれ		
所在地	札幌市豊平区福住2条10丁目14-1 (電話) 011-855-5738		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年2月24日	評価確定日	平成22年3月10日

【情報提供票より】(平成 22年 2月 11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人、非常勤 4人、	常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~38,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:16,000円 暖房費:11,000円(11~3月)	
敷金	有(60,000~76,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(2月 11日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2		2 名	
要介護3	4 名	要介護4		0 名	
要介護5	2 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 86 歳	最低 76 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	緑愛クリニック、展望台整形、クボタ泌尿器科、高台病院、星川歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外の比較的大きな道路に近い閑静な住宅地の中にある1ユニットのグループホームである。建物は大きな民家を改装して造られ、庭の草木もあり、各居室、共用空間とも家庭的で温かみのあるホームである。階段の昇降には必要に応じて昇降機を利用している。前年に管理者が交代しサービス向上に向けて積極的に取り組んでおり、外部評価項目にも多くの改善が実施されている。きめ細かなモニタリングに基づく利用者本位の介護計画の作成、利用者の外出機会の充実、医療面の往診体制、口腔ケアの充実などの点が特に優れている。運営推進会議には家族の参加を得て、運営面で家族の意見を取り入れている。また、昨年からは職員が連携し、利用者ができることをなるべくしてもらおうようにしており、利用者がより活動的になっている点も特徴である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については積極的に取り組まれ、「地域とのつきあい」「職員研修」「食事の楽しみ」「外出支援」などの項目が具体的に改善されている。今後も自己評価、外部評価の結果を踏まえた継続的な取り組みを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は一部の職員が参加し作成され、管理者が全体を取りまとめているため、今後は職員全体で記入や意見交換を行い、自己評価を取りまとめられるよう期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月に1度、地域包括支援センター職員、利用者家族などが参加して開催しているが、最近では地域の方の参加が得られていないので、地域の方の運営推進会議への参加が得られるよう再度の呼びかけを期待する。町内会役員や民生委員の方を含め幅広く呼びかけ、参加メンバーの多様性が高まることを期待したい。会議では運営報告のほかサービス評価、行事、インフルエンザ対策などをテーマに意見交換し、議事録も整備している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 運営推進会議に複数の家族の参加を得て幅広く意見を聞いており、ホーム内の飾り付けやカレンダーの設置など家族の意見を反映している。また玄関に意見箱を設置しており、重要事項説明書には外部の苦情受付機関を詳しく明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、ホームとして総会やごみ収集説明会などに参加しており、利用者も、餅つき会などの地域の行事などに参加している。沖縄民謡や教会のボランティアの方がホームの敬老会などに訪れており、歌を披露してくれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として「福祉・環境・少子の問題についての社会に貢献」を挙げ、ホームでも「笑顔と挨拶、明るい生活」という標語を掲げているが、地域密着型サービスとしての地域との関わりについては盛り込まれていない。		地域密着型サービスとして、地域との関わり合いや地域との交流についてホームとしてさらに意識できるよう、理念やホーム独自目標などに盛り込まれるよう期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念を額に入れホームの玄関や居間に掲示しており、標語である「笑顔と挨拶、明るい生活」についてはパンフレットにも記載され、職員にも浸透している。職員は毎朝個々の利用者に挨拶を実行している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ホームとして総会やごみ収集説明会などに参加しており、利用者も、餅つき会などの地域の行事などに参加している。沖縄民謡や教会のボランティアの方がホームの敬老会などに訪れており、歌を披露してくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は一部の職員が参加し作成され、管理者が全体を取りまとめている。前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については積極的に取り組まれ、「地域とのつきあい」「職員研修」「食事の楽しみ」「外出支援」などの項目が具体的に改善されている。		自己評価について職員全体で記入や意見交換を行い、取りまとめられるよう期待する。また、自己評価、外部評価の結果を踏まえた継続的な取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、地域包括支援センター職員、利用者家族などが参加して開催しているが、最近は地域の方の参加が得られていない。運営報告のほかサービス評価、行事、インフルエンザ対策などをテーマに意見交換し、議事録も整備している。		地域の方の運営推進会議への参加が得られるよう再度の呼びかけを期待する。町内会役員や民生委員の方を含め幅広く呼びかけ、参加メンバーの多様性が高まることを期待したい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員がホームの運営推進会議に参加しており、その際に情報提供してもらっている。その他、生活保護の関係やホームの運営に関する事項について必要に応じて市や区の担当者に相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、その都度利用者の状況を報告している。またホーム便りを毎月作成して家族に送付しており、個別のお便りや写真も同封している。一方、金銭出納の報告は定期的には行われていない。		預かり金に係る金銭出納についても定期的に家族に明細を報告するよう期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に複数の家族の参加を得て幅広く意見を聞いており、ホーム内の飾り付けやカレンダーの設置など家族の意見を反映している。また玄関に意見箱を設置しており、重要事項説明書には外部の苦情受付機関を詳しく明示している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限となるよう努力し、管理者と職員の対話を持つようにしており、昨年後半から職員も安定している。離職がある場合でも利用者に辞めることを伝えてはならず、過去にダメージが見られたケースもない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	札幌市などが主催する外部研修に職員を参加させており、各職員が年に1回以上は研修に参加できるようにしている。その他に個人での研修参加も奨励している。また、2ヶ月に1度程度社内の勉強会も行われている。		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	管理者はグループホーム管理者会議に出席しており、同業者と交流する機会を持っている。一方、職員が他のグループホームの職員と交流する機会は少ない。		管理者以外の職員も他のグループホーム職員と交流する機会が得られるよう、グループ討議があるような職員研修に参加させたり、他のグループホームとの相互訪問を企画されるよう期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者は利用開始前にできるだけホームを見学を訪れ、納得した上で利用を決めている。見学が難しい場合は管理者が利用予定者を訪問し、事前に馴染みの関係を築いている。利用開始後は食事の席を工夫するなどして、早く馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	料理の味付けや材料の切り方、洗濯物のたたみ方など利用者に昔からの知恵を教わることがある。また、起床介助や入浴介助、トイレ介助の際に、利用者が職員に「ありがとう」などの感謝の言葉をかけてくれる場面もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>思いや意向を表出するのが困難な利用者も事前に家族から情報を得て、職員間で表情や行動パターンなどの情報を共有し、希望を把握している。利用開始時に家族から情報を得て独自のアセスメント要約表を作成し、利用者の生活歴や嗜好などの情報を把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画は3～6ヶ月の期間を設定し作成され、利用者の思いや意向、健康状態、暮らしの現状把握など課題領域で分析したアセスメントに基づき職員全員で検討し計画策定を行っている。センター方式も活用し、家族の意向、医療関係者の指導、職員意見を反映し、本人本位となる計画作成に尽力している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は設定した期間に応じて、また状態変化時に見直しを行っている。期間によるモニタリングは、担当者が中心となって検討しカンファレンスで話し合いの後、サービス担当者会議でまとめ、家族の意向も確認している。モニタリング実施記録表はサービス内容に対し、今後の方針や新たな目標を詳細に示し、現状に即した内容で作成されている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を活かし入院回避などの負担軽減のほか、家族対応が困難な場合の通院支援や訪問・外出美容支援を行っている。個別外出では、買い物や外食など利用者のニーズに応じた支援を今後も積極的に応じる意向を示している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科、整形、泌尿器科、歯科の往診や訪問看護による健康管理支援が整備され、職員は診療や観察の記録内容を把握して日々の支援に活かしている。特変時は家族に連絡し適切な医療に向け合意形成を行っている。外来受診は家族対応であり、受診後結果を聞いている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化・看取りに関して、医療連携体制の中で目的や方針を示し、入居時に家族と話し合いを持って確認書を取り交わしている。事業所では医療的処置が必要になった場合は他のサービスに移行を願う体制であるが、今後、予想される重度化などの支援のあり方など、職員全員で話し合い共有する考えを示している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>馴れ合いによって利用者への言葉かけや対応が損なわれないよう、気が付いた場合は朝の申し送りや連絡ノートで注意を促している。排泄時や往診時などは、羞恥心や不安、プライバシーに配慮している。個人情報利用時や管理の取り決めに徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務中心であった部分を改善し、利用者に向き合う時間を多く確保し、本人本位のケアのあり方を見直し、その人らしい暮らしを保てるよう取り組んでいる。本人の生活リズムに配慮しながら、起床や入浴時間、食事にかかる時間など状態に合わせて支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事を楽しみ利用者へのさりげないサポートや一人ひとりのペースで支援しており、和やかな雰囲気である。食材の下ごしらえや味見、食器拭きなど食事一連の流れに参加してもらい、食事のプロセスを大切にしている。外食や行事食、ベランダで飲食をするなど食事に変化をつけている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回午後からの支援であるが、その日の利用者の状態や外出の状況によって臨機応変に対応している。職員は利用者が安心して浴室に向かえるよう声かけや入浴順を工夫している。入浴中は安全性に留意し、ゆったりと入浴できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのできることを見つけ、本人が達成感や満足感を感じられる場面作りを行っている。台所仕事や拭き掃除、畑作業などにさりげなく声かけし、やる気を引き出す雰囲気作りに取り組んでいる。体操や歌、音読など療法効果を入れ、生活にメリハリをつけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の喜びや楽しみ、力の発揮となるよう外出支援に力を注いでいる。冬場以外の毎日の散歩や外気浴、JRタワーや初詣、外食など行事的な外出も毎月計画し、利用者の状態や体調、意向に合わせ少人数に分かれて出かけるなどの配慮も持って取り組まれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず夜間のみ施錠している。内側風除ドア上部に開閉を止める短い棒があるが、内側から取り外し可能な状態で設置してある。利用者の外出は職員が見守りで一緒に出かけ、外出抑制をせず自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>前年度の避難訓練は、夜間を想定したイメージ訓練として1度実施されている。職員と利用者が防災センターで災害体験を受けているが、事業所での実践的な訓練には至っておらず、地域との協力体制作りも含め、早急の取り組み課題となっている。</p>		<p>利用者の安全確保と避難誘導が適切に行えるよう昼夜を想定した実践的な避難訓練の実施が望まれ、地域との協力体制や災害備蓄品の確保、定期的な救急救命訓練などあらゆる点を点検し、消防行政からの意見も仰ぎ災害対策の強化について期待したい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスを考えた献立を作り、その日の一人ひとりの食事量、水分量をチェックして日誌につけ、摂取量を把握している。利用者の体調や状態を見極めながら、不足が生じないように摂取しやすい食事形態で提供し、適切な栄養摂取の支援に努めている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>対面式キッチンとリビングダイニングが一体となった造りで、ソファコーナーやテーブル配置を工夫し、利用者、職員が全員で集える空間となっている。行事の飾り付けや庭木の自然などで四季を感じることもできる居間である。階段に昇降機を設置して身体機能に配慮があり、場所の表示で混乱や失敗を招かない環境作りを行っている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室はゆったりとした広さで備え付けクローゼットや押入れもあり、利用者の使い慣れた家具や生活用品、装飾品が持ち込まれ安心して過ごせる場所となっている。ベッドのほか布団敷きの就寝スタイルを整え、利用者の希望や状態に応じた生活環境が支援されている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。